

## 用語解説



## ■ 航空用語

<b>APU</b>	補助動力装置 (Auxiliary Power Unit) のこと。航空機のメインエンジンを始動させたり、空調・電気系統の動力源として利用される、航空機に装備された小型エンジンのことをいう。
<b>GPU</b>	地上動力施設 (Ground Power Unit) のこと。地上において航空機に必要な空調や電力を供給する地上の施設のことをいう。
<b>GSE 車両</b>	地上支援機材 (Ground Support Equipment) である車両のこと。旅客の乗降や貨物の積み卸し、また給油等を行う際の地上支援等に使用する車両をいう。
<b>LTO サイクル</b>	航空機の発着における、進入 (着陸) ・タクシーイング・アイドリング・離陸・上昇の一連のサイクルをいう。LTO とは Landing and Take Off に基づく。
<b>エプロン</b>	乗客、貨物あるいは郵便物の積み下ろし、給油、駐留または整備のために航空機を駐機させることを目的とした区域をいう。
<b>オープンスカイ</b>	企業数、路線及び便数に係る制限を二国間で相互に撤廃する航空自由化のことをいう。
<b>滑走路</b>	航空機の着陸あるいは離陸のために設けられた空港内の限定された矩形の区域をいう。
<b>首都圏空港の処理能力</b>	ここでは、羽田空港及び成田空港の、年間の航空機の離着陸回数のこと。
<b>コンター</b>	等高線 (Contour) のこと。発生する騒音や標高等が同じ値の地点を結んだ曲線のことをいう。
<b>スポット</b>	エプロン内にあり、航空機が駐機する位置のことをいう。
<b>タクシーイング</b>	航空機が、誘導路を行き来する際の地上走行をいう。
<b>ディアイシング</b>	防除氷剤を航空機に散布し、航空機についた雪や氷を排除するとともに、雪や氷が機体に付き難くさせることをいう。
<b>ノイズリダクションハンガー (NRH)</b>	格納庫型消音施設 (Noise-Reduction Hangar) のこと。航空機のエンジン試運転時の騒音等が隣接地区に与える影響を低減させるための施設をいう。
<b>フラップ</b>	一般に、高揚力装置として使用される航空機の固定翼の可動部分のこと。
<b>防除氷剤</b>	航空機についた雪や氷を排除するとともに、雪や氷が機体に付き難くするために散布する薬剤のことをいう。なお、防除氷剤の主要な成分プロピレングリコールは、食品や医薬品にも用いられる場合がある。
<b>誘導路</b>	滑走路とエプロン等を結ぶ航空機の地上走行路をいう。

## ■環境に係る法令や基準等

<b>環境基準</b>	環境基本法に基づき、「人の健康を保護し、及び生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい基準」として国が定めるもの。維持されることが望ましい基準であり、行政上の政策目標とされている。
<b>規制基準</b>	法律等に基づいて、公害の原因となる行為を規制するための基準。例えば、騒音規制法では、特定の建設作業により発生する騒音について、この基準を遵守しなければならない。
<b>公共用飛行場周辺における航空機騒音による障害の防止等に関する法律（騒防法）</b>	法律により指定された特定飛行場周辺において、航空機の騒音により生じる障害の防止、離着陸の頻繁な実施により生ずる損失の補償のため、特定飛行場の設置者が講ずべき措置等を規定した法律。成田空港は特定飛行場に含まれる。
<b>特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法（騒特法）</b>	法律により指定された特定空港の周辺で、航空機の騒音により生ずる障害を防止し、あわせて適正かつ合理的な土地利用を図ることを目的として策定された法律。成田空港のみが特定空港に指定されている。
<b>特定建設作業</b>	建設工事として行われる作業のうち、著しい騒音又は振動を発生する作業であって、騒音規制法又は振動規制法に定められたものをいう。
<b>要請限度</b>	騒音規制法及び振動規制法において設定されている判断の基準となる値のこと。市町村長は、道路交通に係る騒音及び振動の測定結果がこの限度を超えているときは、生活環境が著しく損なわれているとして、管理者等に対策を講じるよう要請する事ができる。

## ■大気質

<b>ppm</b>	parts per million の略であり、濃度の単位で、100 万分の 1 を 1 ppm と表示する。例えば、1 m <sup>3</sup> の空気中に 1cm <sup>3</sup> が混じっている場合の物質の濃度を 1ppm と表示する。
<b>1 時間値</b>	大気質の環境測定において、60 分間に得られた測定値。1 時間値の平均値等を用いて環境を評価する。
<b>異常年検定</b>	基準年の気象が平年の気象に比べて異常でなかったかどうか、統計手法を用いて検定すること。
<b>一般環境大気測定局</b>	大気汚染の状況を常時監視するための測定局で、自動車排出ガス測定局以外のものをいう。道路、工場等の特定の大気汚染物質発生源の影響を受けない場所で、その地域を代表すると考えられる場所に設置される。
<b>煙源</b>	大気汚染の予測における大気汚染物質の発生源をいう。環境影響評価においては、煙源から排出される大気汚染物質により新たに増加する空気中の大気汚染物質濃度(寄与濃度)を、事業の影響を受けない条件の濃度(バックグラウンド濃度)に足し合わせて大気汚染の環境影響の予測を行う。

<b>光化学オキシダント</b>	窒素酸化物（NO <sub>x</sub> ）や揮発性有機化合物（VOC）などが太陽光線を受けて光化学反応を起こすことにより生成されるオゾンなどの総称のこと。光化学スモッグの原因となっている物質である。高濃度では眼やのどへの刺激や呼吸器に影響を及ぼすおそれがある。
<b>降下ばいじん</b>	大気中への排出や、風により地表から舞い上がった粒子状物質のうち、粒子が比較的大きいためにより自重で地上に落下（降下）するものや、雨や雪に取り込まれて地上に落下するものをいう。
<b>自動車排出ガス測定局</b>	大気汚染の状況を常時監視するための測定局のうち、自動車走行による排出物質に起因する大気汚染の考えられる交差点、道路及び道路端付近に設置されたものをいう。
<b>静穏</b>	風が弱く穏やかな状態をいう。気象観測等において、風速が、ある数値より小さいときに「静穏（calm）」または「C（calmの頭文字）」を用いて表す。静穏とする定義は観測方法等により異なる。
<b>大気安定度</b>	大気の安定性の度合いのことをいう。気温が下層から上層に向かって低い状態にあるとき、下層の大気は上層へ移動しやすい。このような状態を「不安定」という。また、温度分布が逆の場合は、下層の大気は上層へ移動しにくい。このような状態を「安定」という。
<b>ダストジャー</b>	降下ばいじんを収集するガラス容器のことをいう。
<b>短期的評価</b>	大気汚染に係る環境基準の適否の評価方法の一つ。環境基準と、1時間値又は1日平均値を比較して評価する。
<b>窒素酸化物</b>	NO <sub>x</sub> （Nitrogen Oxide）ともいい、窒素原子（N）と酸素原子（O）の化合物の総称。空気中で燃焼等の処理を行うとその過程で必ず発生する。高濃度で呼吸器に影響を及ぼすおそれがある。
<b>長期的評価</b>	大気汚染に係る環境基準の適否の評価方法の一つ。環境基準と、年平均値及び年間98%値、2%除外値等を比較して評価する。
<b>二酸化窒素</b>	NO <sub>2</sub> （Nitrogen dioxide）ともいい、物の燃焼で発生した一酸化窒素が空気中で酸化して生成する物質で窒素酸化物の主要成分である。高濃度で呼吸器に影響を及ぼすおそれがあるほか、酸性雨及び光化学オキシダントの原因物質になるといわれている。
<b>日平均値の年間2%除外値</b>	年間における1時間値の1日平均値を値の大きさ順に並べた時に、高い方から2%の範囲にある日の値を除外し、残りの中で値が最高となった日の1日平均値をいう。二酸化硫黄、一酸化炭素及び浮遊粒子状物質の環境基準による評価に用いる。
<b>日平均値の年間98%値</b>	年間における1時間値の1日平均値を値の大きさ順に並べた時に、低い方から98%に相当する日の1日平均値をいう。二酸化窒素の環境基準による評価に用いる。
<b>日射量</b>	単位時間に太陽から受ける放射エネルギーの単位面積あたりの量をいう。

<b>パフ式</b>	大気汚染の拡散モデルの1つ。煙源から瞬間的に排出された大気汚染物質の塊をパフといい、時間とともに移送・拡散の状況を予測するモデルである。移送・拡散の場を非定常と考え、ある時刻の濃度分布とパフの排出量を初期条件として、次の時刻での移送・拡散を逐次計算方式で求める。
<b>微小粒子状物質</b>	PM2.5 ともいい、大気中に浮遊する粒子状の物質のうち粒径が $2.5\mu\text{m}$ (マイクロメートル： $\mu\text{m}=100$ 万分の $1\text{m}$ ) 以下のものをいう。高濃度で呼吸器に影響を及ぼす可能性がある。
<b>浮遊粒子状物質</b>	SPM (Suspended Particulate Matter) ともいい、大気中に浮遊する粒子状の物質 (浮遊粉じん、エアロゾルなど) のうち粒径が $10\mu\text{m}$ (マイクロメートル： $\mu\text{m}=100$ 万分の $1\text{m}$ ) 以下のものをいう。高濃度で呼吸器に影響を及ぼすおそれがある。
<b>粉じん</b>	大気中に含まれる固体の粒子の総称。大気汚染防止法では、物の破砕やたい積等により発生し、又は飛散する物質と定義されている。
<b>プルーム式</b>	大気の拡散予測式の1つ。移送・拡散の現象を煙流 (プルーム) で表現する。風、拡散係数、排出量当を一定とした時の濃度分布の定常解を求める。計算が比較的容易で、長期平均濃度の推定に適している。
<b>放射収支量</b>	地表面が太陽から受け取る放射エネルギーの内、地表面から天空に逃げていく分を差し引いたエネルギー量をいう。
<b>■ 騒音・振動・低周波音</b>	
<b>A 特性</b>	可聴域の音を人間の聴覚を考慮して評価するための周波数重み付け特性。
<b>G 特性</b>	1~20Hz の超低周波音による人体感覚を評価するための周波数重み付け特性。
<b>WECPNL</b>	加重等価平均感覚騒音レベル (Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level) のこと。2013年 (平成25年) 3月まで航空機騒音の環境基準の評価に用いられていた。
<b><math>L_{A5}</math></b>	(騒音レベルの) 90%レンジの上端値。90%レンジとは、計測した値の範囲内の最高値と最低値からそれぞれ 5%ずつ除外したものであり、 $L_{A5}$ は残った値のうち上端の値を指す。
<b><math>L_{10}</math></b>	(振動レベルの) 80%レンジの上端値。80%レンジとは、計測した値の範囲内の最高値と最低値からそれぞれ 10%ずつ除外したものであり、 $L_{10}$ は残った値のうち上端の値を指す。
<b>音響パワーレベル</b>	音源から放射される単位時間当たりのエネルギー。
<b>最大騒音レベル</b>	騒音の発生ごとに観測される騒音レベルの最大値。

<b>時間帯補正等価騒音レベル(<math>L_{den}</math>) (Day-Evening-Night-averaged sound level)</b>	日本では 2013 年（平成 25 年）4 月 1 日から航空機騒音の評価指標として使われている。昼間よりも「うるさい」と感じられる夕方（19：00～22：00）と夜間（00：00～07：00 及び 22：00～24：00）の騒音に時間帯別の重み付けをして、1 日の航空機騒音の総量を 24 時間の連続音のレベルで表現したものである。また、 $L_{den}$ では飛行騒音に加えて地上走行などの騒音も評価に含まれる。
<b>振動レベル</b>	振動規制法で使用される振動レベルとは、振動加速度レベルに人間の鉛直方向における振動感覚補正を加えたもので、鉛直方向振動加速度レベルともいう。
<b>騒音レベル</b>	音圧レベル（音の物理的な大きさの尺度）を人間の感じ方に合わせて補正したもの。A 特性を用いて補正した音圧レベルであり、A 特性音圧レベルともいう。
<b>単発騒音暴露レベル (<math>L_{AE}</math>)</b>	単発的に発生する騒音の発生ごとのエネルギーを 1 秒間で基準化した騒音レベルをいう。
<b>地盤卓越振動数</b>	道路交通振動は地盤条件にも大きく影響される。一般に地盤が軟弱なほど発生する振動の振動振幅は大きく、振動数は低くなる。地盤卓越振動数とは、原則として大型車の単独走行を対象として 10 回以上の測定を行い、対象車両の通過ごとに地盤振動を 1/3 オクターブバンド分析器により周波数分析し、振動加速度レベルが最大を示す周波数帯域の中心周波数を読み取り、これらを平均した数値をいう。
<b>定量下限値</b>	騒音や振動等の測定や分析において、その測定法や分析法で正確に定量できる最低値のことをいう。
<b>デシベル (dB)</b>	音や振動の大きさなどを表示する際に用いられる単位。
<b>等価騒音レベル (<math>L_{Aeq}</math>)</b>	時間とともに変動する騒音レベルのエネルギー量の平均値。
<b>リバース音</b>	航空機がリバース（逆噴射）を行う際の騒音をいう。機種、路面状況等によりリバースの掛け方（エンジン出力、継続時間、実施区間）が変わり、リバースを全く行わないこともある。気象条件により観測される騒音レベルも大きく変化する。
<b>■水質・水文環境</b>	
<b>BOD</b>	生物化学的酸素要求量（Biochemical Oxygen Demand）のこと。水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素量で、水質の有機汚濁の指標の 1 つ。
<b>COD</b>	化学的酸素要求量（Chemical Oxygen Demand）のこと。水中の有機物を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、水質の有機汚濁の指標の 1 つ。
<b>TOC</b>	全有機炭素（Total Organic Carbon）のこと。水中に含まれる有機物を全炭素量で表したもので、水質の有機汚濁の指標の 1 つ。

<b>涵養</b>	地下水涵養ともいい、地表の水（降水や河川水）が地下に浸透し、帯水層に水が供給されることをいう。
<b>合理式</b>	洪水のピーク流量を推計するための簡便な式のことをいう。
<b>集水域</b>	河川のある1地点(たとえば合流点など)において、雨が降ったときに雨水がその地点に集まる範囲が、その地点からみた集水域となる。
<b>シルト</b>	砂より小さく粘土より粗い碎屑物（岩石が壊れてできた破片や粒子）で、泥（粒径が1/16mm以下のもの）の中で、粘土（粒径が1/256mm以下）より粒が大きく粗いもの（粒径1/16mm～1/256mm）をいう。
<b>水文環境</b>	水が気圏、水圏、岩石圏を循環する場の環境のこと。水文学は、地球上の水の流れとその存在状態を、特にその循環に着目して解析、かつ総合する学問であり、特に地表面付近の人間活動にとって重要な、河川水、地下水などと、その付近の地表及び流域の水の動きを中心に扱う。
<b>地質層序</b>	地球上に分布する地層や岩石を、堆積した年代が古いものから順に下から上に向かって配列した層序のことをいう。生成の新旧や含まれる化石などの特徴によって配列される。
<b>沖積低地（地形）</b>	河川の堆積作用によって形成された低地（河成低地）のことをいう。
<b>調整池</b>	雨水排水を一時的に貯留し、河川等への放流量を調整するための池のことをいう。
<b>貯留池</b>	ラグーンともいい、防除氷剤を含んだ雨水排水を処理施設へ運搬するまでの間、一時的に貯留するための池のこと。
<b>沈砂池</b>	水を集めて、水の中の土や砂の粒を沈殿させて、水の濁りを取るための池のこと。
<b>土粒子</b>	土を構成している固体粒子のことをいう。風化によってできた岩石の分解物・火山噴出物・粘土鉱物・動物や植物の遺がい及び工業製品の廃棄物などから構成される。
<b>被圧地下水</b>	水を通しにくい、または通さない地層である不透水層によって、上下部分を挟まれた状態で存在する層（被圧帯水層と呼ぶ）に存在する地下水のことをいう。通常、被圧地下水は、大気圧より高い圧力を有し、被圧帯水層に設置された井戸の水位は被圧帯水層の上面より上部に位置し、ときには地表面より上部になる（自噴する）こともある。
<b>表土</b>	土壌層のうち最も表層部にある土壌のことをいう。
<b>不圧地下水</b>	降水や河川水、貯水池等の水が地表面から浸透してそのまま地下水となるような地表面付近の「浅い」帯水層などを流れる地下水を不圧地下水という。
<b>浮遊物質</b>	懸濁物質(Suspended Solid)の略称であるSSとも示される。水中に浮遊又は懸濁している直径2mm以下の不溶解性物質の量のこと、数値(mg/L)が大きい程、その水の濁りが多いことを示す。



<b>ボーリングコア</b>	地質調査の一つであるボーリング調査の際には、地表から土壌や岩盤を掘削し、掘削機器内のパイプ（サンプラーと言う）に円筒状に取り込むことができる。その土壌や岩盤のサンプルをボーリングコアという。
<b>ボーリング調査</b>	機械を用いて地盤にせん《穿》孔する調査のことをいい、その目的は、地盤調査、建設工事、地下資源の調査・開発など広い分野にわたり、一般にボーリング調査と呼ばれる。
<b>粒度組成</b>	土粒子径の分布状態を全体に対する百分率で表したものである。土粒子径により、礫、粗砂、細砂、シルト、粘土などにクラス分けして表示する。
<b>ローム層</b>	主に火山灰が風化・堆積してできた地層のことをいう。俗に「赤土」ともいう。
<b>■動物、植物、生態系</b>	
<b>エコーロケーションコール</b>	コウモリ等の動物が自分が発した音が何かにぶつかって返ってきたもの（反響）を受信し、その方向と遅れによってぶつかってきたものの位置を知ることという。
<b>行動圏調査</b>	行動圏とは、ある個体が採食・繁殖・子育てなどの通常の活動に利用する地域であり、行動圏調査とは、その行動圏の分布を明らかにするために行う調査をいう。
<b>シャーマントラップ</b>	ネズミ類を生け捕りにする箱形の罠であり、中に入れた餌につられてやってきたネズミ類がトラップ内の床に設置されたステップを踏み、ステップに連動している扉が閉まる仕組みになっている。
<b>植物群落</b>	森林、草原など一定の相観、種類組成をもち、一定の立地に成立する植物の集合体をいう。
<b>植物相</b>	特定の地域に生育する植物の種類組成をいう。「フロラ」ともいう。
<b>スーピング法</b>	主に樹林地や低木林、草原で捕虫ネットを用いて、草や木の枝をなぎはらうようにしてすくい取ることで、昆虫を採集する方法をいう。
<b>生態系</b>	自然界に存在するすべての種は、各々が独立して存在しているのではなく、食うもの食われるものとして食物連鎖に組み込まれ、相互に影響しあって自然界のバランスを維持している。これらの種に加えて、それを支配している気象、土壌、地形などの環境も含めて生態系をいう。
<b>センサスルート</b>	ラインセンサスにおいて設定した調査ルートのことをいう。
<b>定点調査</b>	同一の調査地点における状況を確認・記録し、面的な分布や経時変化などを調べる調査方法。生物調査では、目視等により個体数や行動を複数回調査し、データを集積する調査法で、個体数や行動範囲などを明らかにすることを目的としている。
<b>動物相</b>	特定の地域や水域に生息する全ての種類の動物をいう。

<b>バットディテクター調査</b>	コウモリ類の発する超音波を可聴域に変換するバットディテクターを用い、反応のある周波数帯から、コウモリ類の生息の有無を確認する方法をいう。
<b>ビーティング法</b>	木の枝、草などを棒で叩いて、下に落ちた昆虫をネット等で受け取って採集する方法をいう。
<b>フィールドサイン法</b>	調査対象地域を可能な限り詳細に踏査して、フィールドサイン（フンや足跡、食痕、巣、爪痕、塚等の生息痕跡）を発見し、生息する動物種を確認する方法。
<b>ベイトトラップ調査</b>	糖蜜や腐肉等の誘引餌（ベイト）を入れたトラップ（プラスチックコップ等）を、口が地表面と同じになるように埋設して、落ち込んだ昆虫を採集する方法をいう。
<b>ポイントセンサス</b>	設定した調査定点にとどまり周辺の鳥類を確認する方法をいう。警戒心が強く、調査者がしばらくじっとしていないと観察できないような種や展望が広い場合に適している。
<b>毎木調査</b>	森林内にいくつか区画を設け、区画内の樹木について個体ごとに樹種や樹高、胸高直径、枝下高等を測定する調査。胸高直径とは、文字通り人の胸の高さあたりの木の直径を指す。
<b>ライトトラップ調査</b>	夜間、光に誘引される夜行性昆虫を採集する方法をいう。白布スクリーン（カーテンともいう）に光を投射し集まる昆虫を採集するカーテン法のほか、光源に集まる昆虫を捕獲箱に落とすボックス法がある。
<b>ラインセンサス</b>	あらかじめ設定しておいたルート上を歩いて、一定の範囲内に出現する鳥類を姿や鳴き声により識別して、種別個体数をカウントする方法をいう。ルートセンサス法ともいう。

## ■ 景観、人と触れ合い活動の場、廃棄物、温室効果ガス

<b>温室効果ガス</b>	大気中の二酸化炭素やメタンなどのガスは太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがある。これらのガスを温室効果ガスという。GHG（Greenhouse Gas）ともいう。
<b>建設汚泥</b>	建設工事に係る掘削工事から生じる泥状の掘削物および泥水のうち「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に規定する産業廃棄物として取り扱われるものをいう。
<b>建設混合廃棄物</b>	複数の種類の建設副産物が混合したものをいう。
<b>建設発生土</b>	建設工事から搬出される土砂のうち、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に規定する廃棄物には該当しないものをいう。
<b>建設副産物</b>	建設工事に伴い副次的に得られたすべての物品をいい、その種類としては、「工事現場外に搬出される建設発生土」、「コンクリート塊」、「アスファルト・コンクリート塊」、「建設発生木材」、「建設汚泥」、「紙くず」、「金属くず」、「ガラスくず・コンクリートくず（工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。）及び陶器くず」又はこれらのものが混合した「建設混合廃棄物」などがある。

---

<b>法面</b>	切土や盛土により作られる人工的な斜面のことをいう。
<b>フォトモンタージュ</b>	写真などの一部の色を変更したり、別の要素を合成したものをいう。環境影響評価においては、視点場からの眺望がどのように変化するかを示すために現況写真に計画している施設等を合成したイメージ画を指す。

---

